

人工林について学びました

令和8年度における最初の森林学習を6月11日（木）滝沢市にある国立岩手山青少年交流の家で行いました。

対象者は、八幡平市立安代小学校5年生16名と同じく田山小学校3名の計19名でした。

当日は、まず教室内で授業を行い、それから野外で樹木の観察などを行う予定でしたが、クマからの被害対策のため、内容を変更して、室内での授業と「ZORING」のカードゲームを実施することとしました。

前回のオリエンテーションで、人工林と天然林の違いがよく分からなかったとの感想がでたので、今回のテーマは、「人工林の育て方」と「ニホンジカの生態と森林の被害について」としました。

授業では、人工林の育て方の流れとして、地拵（じごしらえ）→植え付け→下刈・つる切→除伐→間伐→主伐となり、苗木を1本1本植える作業のために枝や木を寄せる作業から始まり、何十年も手をかけて木を育てること、木が使いやすい大きさ、太さになったところで収穫して、約50年以上かかること、何十年の間には、病虫害やシカ等獣害、集中豪雨、山火事の被害にあう危険性があることを知ってもらいました。

その後は、講義の内容について、更に理解を深めてもらうため、カードゲーム「ZORING」をしてもらい、児童もルールをきちんと理解し、相手の様子を伺いながら山づくりを進め、笑いや悲鳴が絶えない状態で、学びながら楽しめている状況でした。

児童からの感想として、「除伐と間伐の違いがよく分からなかった」「木が育つまで、こんなに年数がかかるのか」「木のシカ・ナラ枯れ被害が多いこと、山火事や大雨により、一瞬に多くの木が失われることが分かった」との感想が出されました。

今後も、森林のことを良く知ってもらえる、楽しい森林学習を続けていきます。



人工林について



ニホンジカの被害について



ZORING カードゲームの状況